

MUSIC SHADOW

楽器未経験者でもヤマハ銀座店に行ってみたくなるような広告



そもそも

楽器未経験者は、なんで楽器屋に行かないのか。それはシンプル。

「楽器を弾くことができないから」

- ・ 楽器演奏が楽しくなってくるのは、ある程度弾けるようになってから。
- ・ 未経験者にとって、楽器に触れる行為はそれだけでハードルが高い。

チャレンジ

楽器を弾けない人にも、音楽や楽器の
楽しさを感じてもらえる体験をつくろう。

インサイト

楽器を弾いたことがない人たちの心のなかにも、きっと音楽や楽器についてワクワクし心踊ってしまう感情は必ずあるはず。

ただ、「自分には音楽の才能はない。」「楽器なんてできっこない」「演奏がうまくないと格好悪い」などのネガティブな考えに負け、心の中にしまい込んでしまっている人が多いだけではないだろうか

アイデアの方向性

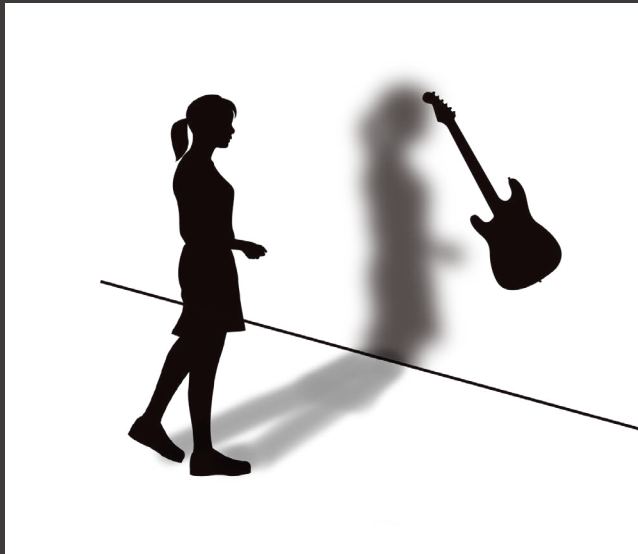
心の奥底に眠っている「音楽を楽しみたい」という感情の投影、“影”を用いた、ワクワクする体験をつくる。

MUSIC SHADOW



楽器が弾けない人でも楽しめる、影あそびを用いた疑似演奏体験

体験の詳細



さまざまな楽器があらかじめ壁面にプリントされている。

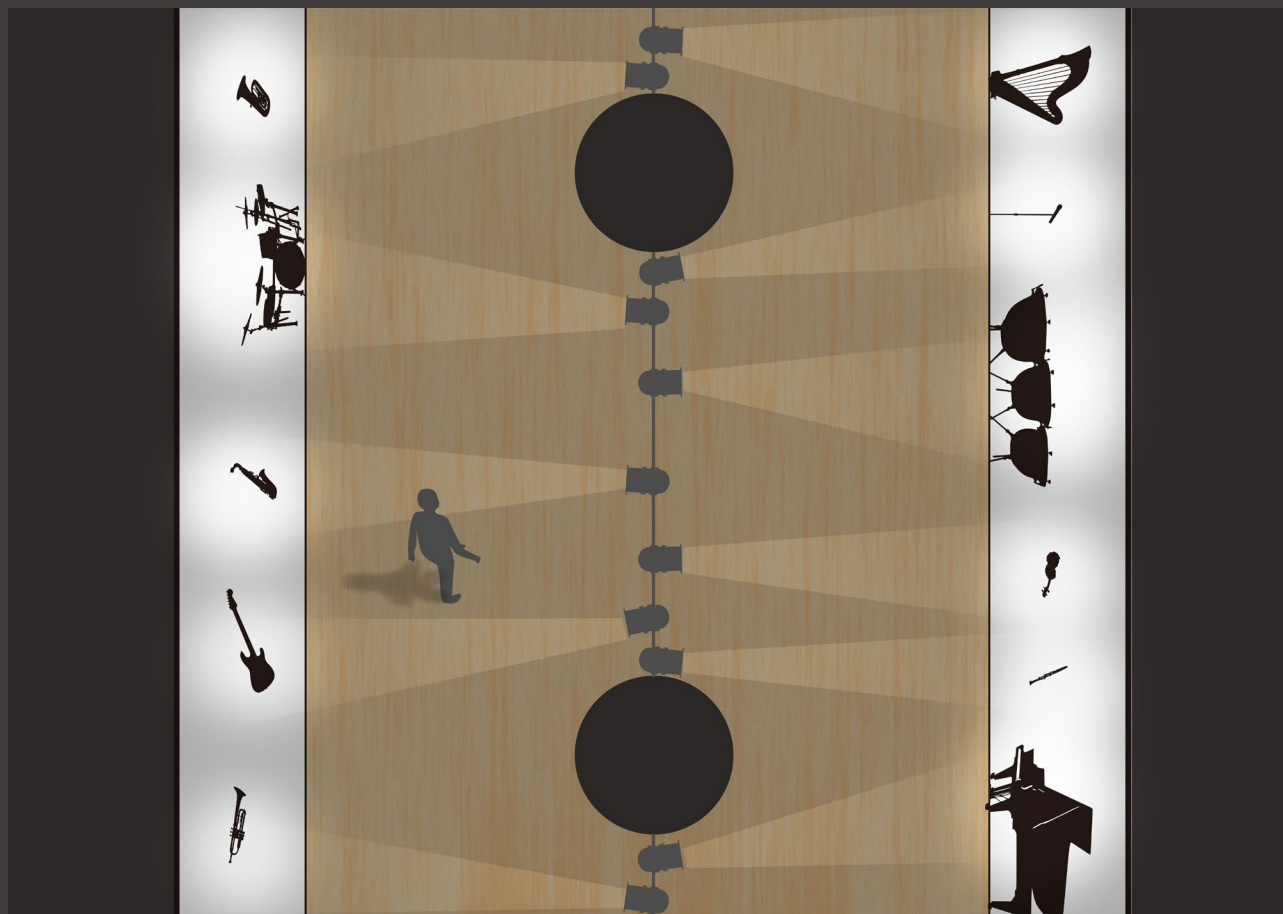


楽器の前に立つと、背後のライトの光によって、自分の影と楽器が重なりあう。



エアー演奏のような動作を行うと、センサーが反応し、動作に合わせてプロの演奏のような気持ちいい音が鳴る。

実施の仕組み



柱があることによってデッドスペースとなっている、通路中央にライトを設置し、そこから両側の壁に向かって光が照射する。

体験の詳細



駅の出口へと向かう通路の床には、YAMAHA 銀座店へと誘導するメッセージが書かれている。